

核関連施設誘致!

リスク承知で核施設を受け入れる  
市町村にいつまでも頼ってはならん!

これまで核関連施設を拒んできた小浜市に核燃料貯蔵施設建設の話が浮上した。小浜が期待するメリットは「電源立地等初期対策交付金」「地元企業への工事発注」「地元住人の雇用増」など。地元経済の低迷や観光客の大幅ダウンの厳しい現実がある限り、むげにはねのけるわけにもいかなかったのだろう。一方、新潟県刈羽村では全国で初めてプルサーマル導入に関する住民投票が行われ、計画反対をアビール。これらふたつの現象を考えると、核関連施設の受け入れは今後両極化していきそうな気配だ。  
それにしても、いつクリーンで安全なエネルギーを使えるようになるのだろうか?ということ。安全でクリーンなエネルギー開発にもっと予算が必要なら、もう少しの電気料金値上げも筆者はガマンする。一律で値上げすると不公平が生じるなら、省電力の家庭を値下げして、大量消費の企業を値上げするか、負担が多少重くなっても、それは電気を使いまくっている国民の当然の義務だ。

# いまだきの歴史

一番新しい日本の一ページ

京都市でIT講習!

単なるパソコンの使い方指導でなく  
豊かな高齢化社会へつながる講習を!



5月から京都市で「IT講習」が開催された。参加応募者はコンピュータ利用率が低い主婦層や高齢者の方々が非常に多く、定員の3倍もあったとか。コンピュータに馴染みが薄いと思われる世代がインターネットやパソコン操作を学びたいという姿勢はとも良いこと。しかし、「コンピュータがあればなんでもできる」とか「インターネットを使えば何かが変わる」とか必要以上の期待をしていないだろうか?コンピュータは魔法の箱ではない。周辺にパソコンを購入したのはいいが、たまにメール交換するだけとか、メール交換さえ携帯で済まし、起動する機会がめったになくなった人もいる。「仕事以外でパソコンを見るのもいや」という人も多く、若い世代ではむしろパソコン離れが進んでいるのではないかと。IT講習はそんなことにならないよう、上手に指導して欲しいし、高齢者の方がコンピュータを使った豊かな生活を実現したなら、それを若い世代に示して欲しい。

## 2080年 もっともクリーンな イカエネルギー開発



## 結末が逆だったら

熊、嵐山に出現!

いきなりの射殺に非難ごうごう  
この事件をどの視点で捉えるべきか?

亀岡で数回日撃されていた熊が嵐山の竹林に登場。観光客などへの被害を食い止めるため、射殺された。通常なら麻醉銃を使い、捕獲。それでもだめならやむなく射殺という手段をとるのだが、今回は周辺の人々の安全を重視したためいきなり射殺。これに対し、動物愛護団体や市民から「いきなり殺すことはなかったのでは?」という抗議が殺到した。事件後の現場にも次々と人が訪れ、花や食べ物をお供えている。  
確かに熊も人も傷つけず解決することが可能ならそうすべき。また、観光客がいる近くで発見された局面だけを考えれば、安全を最優先して射殺したのも判断ミスとは思わない。少なくとも人間の安全は確保できたのだから。それよりも熊が嵐山に出てきたこと自体が大問題。自然の乱開発で、これまでのなわばりでは食料の確保が難しくなったのだ。この事件、決して単純に「熊がかわいそう」で終わらせるべきでない。自然が豊かで「山紫水明」と形容される京都。しかし、野生動物との共生は日増しに困難になってゆく。このままでは第二の事件がいつ起こっても不思議でない。



絶対非難してははず  
違う誰かが



文◎大塚 祐希

1968年大阪府八尾市生まれ。昔ながらの京都の民家を仕事場とするライター集団「大塚祐希事務所」の監定CEO。「スポーツが好きだが自分ではやらない」「車が好きだが免許を持っていない」「酒が好きだが外で飲むと店で眠ってしまう」という数々のジレンマと戦いつつ、今日も愛機G4を駆る。



イラスト◎両口 和史

1967年京都市生まれ。京都精華大学美術学部卒業。北山のオフィスにて様々なキャラクターやイラスト制作をおこなうユニット「キャトル・イラストレーション」のチーフ。猫、フランス車、家具、雑誌、レコード、本、おもちゃ、平日の公園。それらがイラストを構成するエッセンスである。HP●<http://www.d1.dion.ne.jp/~ryoguchi>